

令和6年度 学校関係者評価報告書

学校法人有坂中央学園
専門学校 中央農業大学校

学校関係者評価委員会

学校法人有坂中央学園 専門学校中央農業大学校 学校関係者評価委員会は「令和5年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を令和6年9月26日に実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

業界関係者：竹内 佳晴 (NPO 法人 群馬の食文化研究会)

業界関係者：宮田 祐介 (有限会社みやた農園)

卒業生：栗原 諒雅

2. 令和5年度自己点検・自己評価における学校関係者評価(中央農業大学校)

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none">●建学の精神のもと、教育理念・目標を定め、社会のニーズに対応した社会人の育成に努力している。●業界ニーズの調査収集という点において限定的な方策に留まっている。	<ul style="list-style-type: none">○今後も本校の特色を生かし、学生に理論と実践の両面から指導を行っていく。○現状の範囲にとどまらず、学生の就職先や連携企業など幅広くコミュニケーションをとって、業界ニーズを調査収集していく。
2. 学校運営	<ul style="list-style-type: none">●運営方針及び事業計画が策定されており、また運営組織やその意志決定の過程も明らかになっている。●情報システム化による業務効率化の観点において学園管理システムが古いシステムとなっている。	<ul style="list-style-type: none">○学園全体として取り組んでいるシステムリプレイスにより、近いうちにシステムは改修される。導入にあたっては無駄な作業の削減ができるよう現場のニーズを反映する。
3. 教育活動	<ul style="list-style-type: none">●教育課程の編成・実施方針等が策定されており、職業教育・キャリア教育の視点に立ったカリキュラムが編成されている。●学科の再編、カリキュラムの専門化と時代に即した変化や学生指導の細分化が進む中で、それらに対応できる教職員の配置について、配慮していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none">○業界・社会が求める人材を育成するため、特別授業や企業見学の実施など、業界や企業等と連携し、より実践的な技能を身に付ける教育に取り組んでいく。○学生のアンケートも基に改善点の検証をし、新たな授業展開、学生指導に役立つ教育体制への取り組みを実施する。

<p>4. 学修成果 ・教育成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●就職率は、卒業までに 100%を達成し、高い水準を維持している。 ●日本農業技術検定だけでなく農業者に求められる資質として農業簿記検定資格取得にも重点を置いていることは、評価できる。 ●資格取得の目標設定・外部に対する結果の公表が限定的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○継続的な就業が出来るよう、学生の意向や特性に合った企業をマッチングして指導していく。 ○農業者に求められる資格であることを認識させ、モチベーションの維持を図る。 ○次年度方針策定にあたり資格取得の目標設定について細部まで行う。また、検定結果の外部公表について内容や方法を検討する。
<p>5. 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●退学者が（昨年比で）増加している。また、退学率の低減に関する分析が十分でない。 ●社会人学生への教育環境整備に関して費用面以外の目立った取り組みが行われていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○退学防止に関して過去の情報を分析・検証し、実効性のある取り組みを検討する。 ○社会人におけるニーズとして有機農業が考えられ、本校が持つリソースを活かせるような方策を検討する。
<p>6. 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●実習機材備品について費用面から十分でない部分がある。 ●防災訓練を実施。万が一に備え、職員間の役割も確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習機材備品については優先度をつけて準備・対応する。
<p>7. 学生の受入れ募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学生募集活動は公正かつ適切に行われている。 ●入学前教育について、学力的な部分を補充する取り組みは行われていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○入学後の取得資格における基礎学力の重要性を考慮して、入学前教育の内容・必要性について検討する。
<p>8. 教育の内部質保証システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●法令を順守し、自己点検、自己評価を行うとともに、情報公開している。 ●個人情報の取り扱いに留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝礼、終礼、教務会議等を通じて、自己評価で提起された問題の共有をはかり随時改善に取り組んでいく。
<p>9. 財務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●財務体質が健全であり、適切な財務運営が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安定した学校経営のため、入学者数の確保に向けた募集活動の強化、退学率の低減に努める。
<p>10. 社会貢献 ・地域活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣地域の社会人を対象とした公開講座等が実施されていない。（過去実績有） 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のニーズ等も踏まえて、学校の持つリソースも考慮しながら公開講座の開講を検討する。
<p>11. 国際交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●留学生の申請取次者証明書を所有している職員はいるが、入管での申請手続きに時間を要する為、業務との兼ね合いを考慮すると入管へ行ける日が限られてしまうことも多く、負担がかかってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度より留学生のみを対象とした受け入れは行っていないが、情勢の変化により申請等取次者申請者を増やす。 ○本科入学希望者については日本語能力検定 2 級（N2）以上の条件を遵守してもらう。

3. 総評

上記11項目に対し、委員による評価は良好であったことから、中央農業大学校の教育活動、学校運営は概ね高い水準で維持されていると評価する。

農業分野については世間の注目が集まる一方で、若い世代の関心は生産よりも販売や商品開発のような2次産業3次産業的分野に偏っている面があり、自らが就農するという所までたどり着かない事も多い。若い世代の学生を職業人として社会に送り出す専門学校に対する現場の期待は、従来以上に大きいものであることが再認識された。

本校で学んだ卒業生は、県内外の幅広い分野で活躍している。今後はより一層の本校と卒業生のネットワーク強化や、新規就農のサポート体制を構築することにより、大きなメリットが生まれ卒業生の安心感につながるといった提言もいただいた。

以上